

2023年度 日本工学院専門学校											
電子・電気科/電気工事コース											
資格対策講座 2											
対象	2年次	開講期	後期	区分	選択	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	内田寿彦			実務 経験	有	職種	電子・電気科 専任教員				
担当教員紹介											
<p>日本工学院専門学校卒業後、総合電気設備工事会社にて一般住宅からビル・マンション・工場の内線工事に従事。職長を経験後、施工管理技士として主に大手建設会社やデベロッパーから受注した現場の施工管理業務を行う。</p> <p>自営である住宅設備会社に転職後は大手都市ガス会社の委託業務の他、屋内電気配線工事や住宅リフォーム・住宅設備機器の販売や管理業務に従事。同時に日本工学院専門学校電子・電気科の非常勤講師を兼任。専任教員として転職後は主に電気工事実習や高圧電気技術などの科目を担当。</p>											
授業概要											
<p>この科目を受講する学生は、総合電気工事における国家資格「甲種4類消防設備士」取得の為に知識を習得する事が出来ます。消防設備士とは、消防用設備が常時機能を発揮する事を確保する制度であり、消防設備士はその業務を誠実にやり工事又は整備に関する技術の向上をはかり、常に新しい知識や技能を身に付ける必要があります。そのためにはこれまで学んできた電気工事の知識を利用し、防災系としての国家取得をめざし、現場活動を行う上での基準を学び、総合的に理解できるようになるのがねらいです。</p>											
到達目標											
<p>この科目では、学生が電気工事業界から取得を求められている、「甲種4類消防設備士」の資格取得が目標となります。防災系資格としての知識の取得・機器整備に対する構造要件など、電気工事士の技術や知識を有効活用し、防災に関する理論を率先して理解すること。消防署などの公的機関や発注元となる顧客への正式な書類提出の方法も理解する。施工現場での専用材料の発注や工程管理を学び理解します。業務活動を行うための必要な能力を具体的にイメージすること、無駄の無い効率的な整備の重要性を理解することを目標にしている。</p>											
授業方法											
<p>この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。また、資格対策講座1と連携し、防災系国家資格としての在学時取得を行うものとする。授業中での行動を通じて、学生の「火災警報設備に対する意識」を育成していく。この授業に主体的に参加する学生が、防災に対しての提案能力を自分自身の言葉で語り、構築できるようになることを目指す。</p>											
成績評価方法											
試験	60%	試験と課題を総合的に評価する									
課題	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する									
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
履修上の注意											
<p>この授業では、国家資格の取得を重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>											
教科書教材											
毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。											
回数	授業計画										
第1回	消防設備士甲種4類について理解する										
第2回	機器の構造について理解する										
第3回	機器の機能について理解する										
第4回	機器の工事・整備について理解する										
第5回	総合的な消防法令について理解する										

2023年度 日本工学院専門学校	
電子・電気科/電気工事コース	
資格対策講座 2	
第6回	甲種4類に関する消防法令について理解する
第7回	機材鑑別について理解する
第8回	全体のまとめ